

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー【2020No.170】(HP 掲載)

分類：LP

作曲家：スメタナ

曲：わが祖国

演奏：ヤクブ・フルシヤ指揮バンベルク交響楽団

発売：ACCENTUS MUSIC

No. : KKC 1171/3

概要：



■収録内容：

LP1

A 第1曲：ヴェジエフラド (15'48)

B 第2曲：ヴァルタヴァ (モルダウ) (12'36)

LP2

C 第3曲：シャールカ (10'15)

D 第4曲：ボヘミアの森と草原から (13'10)

LP3

E 第5曲：ターボル (13'15)

F 第6曲：ブラニーク (15'32)

■収録日：2019年7月25,26日

■収録場所：ヨーゼフ・カイルベルト・ザール、コンツェルトハレ、バンベルク

■録音：

レコーディング・プロデューサー&エンジニア：ライナー・マイヤール

カッティング・エンジニア：シドニー・クレア・メイヤー

マイク：ゼンハイザーMKH800 Twin and MKH30

カッティング・マシン：ノイマン VMS80

カッティング・ヘッド：ノイマン SX74

製造：オプティマル

ネット上の情報は以下のとおりです。

ベルリン・フィルを手がけた録音チームによる新譜

ダイレクトカット LP の注目タイトル登場。ヤクブ・フルシャ指揮、バンベルク響の
「スメタナ《わが祖国》

ヤクブ・フルシャ指揮、ドイツ・バイエルン州のバンベルク交響楽団によって 2019
年 7 月に演奏されたベドルジフ・スメタナ作曲の交響詩《わが祖国》が、ダイレクト
カット録音の LP (45 回転盤) にて 9 月上旬に発売される。



2019 年 7 月、ヤクブ・フルシャ指揮、バンベルク交響楽団によって演奏されたダイ
レクトカット録音は、マイクで拾った音をカッティングレースに送り、そのまま溝を
刻みこんでいく手法。録音方法の難しさもさることながら、録り直しが効かない一発
勝負ということで、演奏者へのプレッシャーも相当なもの。その真価が発揮されたリ
リースとして、2016 年発売のベルリン・フィル&ラトル「ブラームス交響曲全集」や
2020 年発売のベルリン・フィル&ハイティンク「ブルックナー交響曲第 7 番」があげ
られる。

今回発売されるレコードは、ベルリン・フィルのダイレクトカットを手がけた、エミ
ールベルリナー・スタジオのライナー・マイヤール氏率いる録音チームの手によるも
の。世界限定 1,111 セット、シリアルナンバー付の貴重なリリースとなる。なお、当
録音の他のフォーマットでのリリースはない。



カッティング・マシンは「ノイマン VMS80」を使用

エミールベルリナー・スタジオのライナー・マイヤール氏率いる録音チームの手によるフルシャの十八番のレパートリーである《わが祖国》の手兵バンベルク響との演奏、この録音への意気込みが感じられる。各曲がボヘミアの地名に関連付けられている交響詩《わが祖国》、フルシャはボヘミアの郷愁や抒情を豊かに表現し、繊細さとダイナミックさが共存する聴きごたえのある演奏となった。

本タイトルは、ファイルウェブにてご注文を受け付け中。素晴らしい演奏と録音を、ぜひ味わってみてはいかがでしょうか。」

入手したものは、Serial No.が 1111 番中の 747 番で、3 枚組です。

今回からフォノイコライザーは ZANDEN Model 120 を使用し、イコライザーカーブは RIAA、位相は正相、第 4 時定数は High に設定し、LP-12 を 45 回転に合わせて聴いていきました。イコライザーカーブなどの最適化は別途実施します。

ちなみに、バンベルク響はブロムシュテットの指揮でブルックナーの 4 番の演奏を聴いていますし、わが祖国のうち、モルダウは、各種音源の聴き比べを[アナログアキュライザーの展開\(13\)](#) で実施しており、演奏会では随分以前になりますが、小澤征爾指揮で大フィルの演奏を聴いています。

第 1 曲のヴィシエフラドでは、出だしのハーブの音色の自然さが、あたかも生音を聴いているようです。

第 2 曲のヴァルタヴァ（モルダウ）では、全体を通して美しい旋律と終盤の盛り上がりと最後の消えゆくピアニッシモまでリアルそのものです。

第 3 曲のシャルカでは、浮かび上がってくる木管、切り裂くような金管にはっとさせられます。

第 4 曲ボヘミアの森と草原からでは、千変万化するオーケストレーションが聴きどころです。

第 5 曲のターボルでは、中低域から低域の凄みのある切れ味が聴きどころです。

第 6 曲のブラニークでは、重厚なリズムを刻むところや、ゆったり流れるようなところがあって終盤の盛り上がりにつなげていきます。

全体を通して、部分的に誇張するところがなく、極めて自然な音色で、あたかもコンサートでも聴くような印象です。

以上から、[アナログアキュライザーの展開\(13\)](#) で聴いた音源とは格段のレベル差があると言えます。

以上